



## 天に栄光、地に平和

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

(ルカによる福音書2章14節)

いまクリスマスシーズンの真っ最中で、街の中はとてものにぎやかで、きれいです。でも皆さんは、世界で一番初めてのクリスマスがとてもしんないものだったことを知っていましたか。サンタクロースはいませんし、ケーキもありません。クリスマスツリーの豆電球がパチパチすることもなかったのです。

ガリラヤから旅に出てベツレヘムの町に着いたヨセフさんと大きなお腹をしたマリアさんが必死で宿屋を探しています。でも、どこの宿屋もいっぱい、やっと入ることが出来たのが馬小屋でした。皆さんは馬小屋に入ったことがありますか。そこは馬や牛のおしっこのにおいがしてとても臭いところ。だからお客さんが来た時に馬小屋に通す人なんていませんが、その場所でイエス様はお生まれになったのです。ベツレヘムの町でイエス様のお誕生を知っている人は誰もいませんでした。とても暗い、しんとした夜でした。

その時、ベツレヘムの町の近くの野原で、羊飼いたちが夜通し羊の番をしていました。羊はとてにかわいらしい動物ですが、羊飼いの仕事はたいへんです。保育園でも学校でも会社でも休みの日があるけれど、羊飼いに休みの日はありません。毎日くたくたになるまで働いたのに夜も休めないのです。みんな「町の人たちはいいなあ。ゆっくり眠ることが出来て」と思っていたかもしれません。

すると突然、真っ暗な空に真昼のような明るい光がさして天使が現れました。羊飼いたちはみんな神様の前に立たされた思いで、怖くなってふるえていると、天使は恐れるなど言って、救い主の誕生を告げました。続いて数えきれないほどの天使が現われて、神様を賛美する歌を歌い始めたのです。歌声は空いっぱい響きわたりました。その夜、町も村もしんと静まり返っていたのに、神様が

おられる天は喜びでわきたっていたのです。

では、空の下と上でどうしてそうも違っていたのでしょうか。まず空の下の人間たちは、神様が救い主を送って下さることは知ってはいましたが、でも、それがまさかその日だとは思っていなかったのです。毎日の暮らしに追われていて、イエス様がお生まれになってもなんにも気がつかないのです。

これとは反対に、天使たちはイエス様のお誕生で喜びにわきたっていましたが、それは不思議です。イエス様はもともと天におられた方なのに、地上に降ってお生まれになりました。やがて大人になり、神様のことを宣べ伝えますが、最後に十字架にかけられて死んでしまわれます。もしもイエス様が地上においでにならなければあれほど苦労されることはなかったでしょう。だから、イエス様がお生まれになったことで悲しむのならわかりますが、それが喜んでいたというのです。

でも、それは神様のみこころを知らない人の思いです。神様がイエス様をこの世界に送り出す時、悲しかったでしょう。おつらかったでしょう。けれども喜びはそれよりはるかに大きかったのです。イエス様がこの世界に、神様の愛を伝えに行かれたからです。

「いと高きところには、神様に栄光がありますように。地には、みこころにかなう人々に平和がありますように」。イエス様がおいでになったということは、神様がさらに大きくたたえられるということです。そして神様に従う人たちに平和が来るのです。天使たちはそのことを喜んで、歌っていたのです。

天使たちの歌に励まされた羊飼いたちは、ベツレヘムの町に出かけて行って、生まれたばかりのイエス様を探しあてました。すべて天使が告げた通りでした。

皆さんはクリスマスにプレゼントをもらいましょう。でも、いちばん素晴らしいプレゼントこそイエス様です。イエス様は、神様が世界の人々を救うために贈って下さった最高のプレゼントなのです。

(2013年12月22日の讚美礼拝説教より)

牧師 井上 豊